

科学研究推進WG

田原 俊司

1. 目的と発足の経緯

10月15日に開催された第7回業務実施委員会において、総括技術長から奨励研究応募書類の事前チェック体制の確立について提案があり賛同了承された。その骨子は、①研究費の獲得は技術職員の研究活動や資質の向上に欠かせないものとなっているが、獲得競争が激化している。②これまで個々に応募していたが技術部の組織化を契機に技術部全体の問題として取り組むことが必要。という2つの観点から、多くの技術職員に奨励研究へ関心を持ってもらい、応募者数の増加を図り、合わせて採択率向上を技術部として目指すこととなった。その方策として技術部内に奨励研究応募書類の事前チェック体制を確立することが決定され、チェック委員を選出する運びとなった。

2. 活動内容

年度途中ではあったが各系から技術長主体で1、2名のチェック委員を選出していただき、急遽科学研究推進WG設立にこぎ着けた。また、応募書類提出締め切り日まで期限が押し迫っていたので、チェック委員には事前に十分協議事項を把握していただいた上で第1回科学研究推進WG連絡会議を行い(10月23日)、奨励研究相談会や事前チェックなどについて協議し、本年度の活動内容やスケジュールをすべて決定した。

主な活動内容は以下の通りである。

奨励研究計画調書サンプルの配布(11月5日、11月12日)

奨励研究相談会(11月9日)

奨励研究応募書類事前チェック(11月12日～22日)

奨励研究応募書類一括提出(11月30日)

3. 成果

奨励研究相談会参加者数は8名であった。参加人数は予想より少なかったがチェック委員出席者数とほぼ同人数であったので情報交換会の様相を呈する場面もあり、忌憚なき意見交換が行われて有意義な相談会となった。

奨励研究応募書類事前チェックについてはチェック依頼者数が9名であった。依頼者1名分の応募書類に対して2人のチェック委員がそれぞれ独自にチェックした。初めての試みであるせいかチェック内容や程度も様々で依頼者の反応も概ね良好ではあったが良否様々なものとなった。

4. 今後の課題

本年度の奨励研究応募者数は技術部全体としてはまだまだ少ない感があり、応募者数の増加を図ることが早急の課題であると思われるので、技術部と連携しながら応募者数増加に取り組んでいきたい。事前チェックについては、チェック項目の統一化やチェックレベルの平均化を図り、さらに本年度の採択結果を分析し、採択率向上のためのノウハウを蓄積したいと考えている。

謝辞 奨励研究計画調書サンプルを快く提供していただいた方々に感謝致します。